

# 国語科学習指導案

指導者 島本 佳代子

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 19 日 (月)
- 2 学 年 第 1 学年 2 組 20 名 [1 年 2 組教室]
- 3 単 元 名 本のおすすめやさんをひらこう  
(学習材：いろいろなおはなしをよもう  
「おとうとねずみチロ」 東京書籍 1 年下)

## 4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第 1 学年及び第 2 学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

(1)ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

本単元では、物語の好きなところを友達に紹介する活動を通して、登場人物の会話文や行動の叙述を根拠にして、想像を広げながら読む力を育てることをねらいとしている。さらに、物語の楽しさを味わうことで、読書の幅を広げていくことができると考える。

「おとうとねずみチロ」は、兄弟の中で最も幼いチロがだれの助けも借りずに心配事を乗り越えたとともに、おばあちゃんとも心を通わせていく物語である。この物語は、3つの場面で構成されている。第一場面（おばあちゃんからの手紙とチロの心配）→第二場面（チロの決断とおばあちゃんへの呼びかけ）第三場面（おばあちゃんからの贈り物）という構成になっており、主人公チロの様子の移り変わりが場面の展開にそって分かりやすく描かれている。したがって、主人公の会話文や行動から様子を豊かに想像して読むという読み方を身に付けさせることに適した教材といえる。

- 本学級の児童は、登場人物がしたことを順番に読み取り、行動から豊かに想像して読むことをねらい、これまでに「かいがら」「おおきなかぶ」「サラダでげんき」などの文学的な文章を学習してきた。児童は特に、物語のくり返しの構造に関心を持ち、音読したり動作化したりすることを手がかりにして場面の様子や登場人物の行動、気持ちを想像しながらお話を楽しんで読む活動を経験した。

しかし、自分の思いを言葉で表現したり、本文中の言葉を手がかりに根拠をもって想像したりすることが難しい児童も少なくなかった。1 学期実施した文学的な文章のテスト「様子を想像しながら、人物の行動を順に読み取る」の 90 点以上の児童は 80% (16/20 人) であった。

読書については、1 学期から始めた「読書貯金」は 50 冊を超えた児童が 90% (18 人) であった。朝読書の時間や図書室で読書をする時間には、自分が興味をもった本を自由に読んでいる。

「おのみち学校で本を読む会『ルピナス』」の方や、上級生の図書委員会、指導者による読み聞かせも熱心に聴いている姿が見られる。しかし、同じ本ばかりを読んだり、挿絵や写真のみを見たりして、様子を想像しながら物語を読むことが難しい児童も数名いる。

○ 指導にあたって、児童が意欲的に自分で選んだ本を友達に紹介し、登場人物の会話文や行動の叙述を根拠にして、想像を広げながら読む力を培うために、以下の3点を工夫していく。

第一に、単元の始めに、自分で選んだ本の好きなどころを「おすすめカード」にかき、友達に紹介するという活動を児童に知らせることで、児童の興味関心を高める。「おすすめカード」には、本の題名、作者、好きなどころの絵、好きな理由の4点をかく。「おすすめカード」をかくことでより分かりやすく本を紹介することができることを伝える。二次の学習でも「おとうとねずみ チロ」の「おすすめカード」をかき、三次の学習活動へとつなげていく。

第二に、想像を広げて読む力を育てるために、場面の様々な設定や主人公チロの置かれている状況を正しく理解させる。そのために、チロの会話文や行動の叙述に着目させ、その意味について、動作化したり、児童の生活経験や挿絵をもとにイメージ化したりすること等の手段を取り入れて、より具体的に把握できるようにする。また、前後の叙述との関連を考えることによって、チロの心情の変化を読み取ることができるようにする。

第三に、市立図書館から教科書の紹介図書を中心とした様々な物語を借り、いつでも児童が本に触れることができる環境を作り、並行読書をさせる。これにより、三次の学習活動への見通しをもちながら本教材の学習を進めていくことができるようにする。

## 5 研究主題との関わり

### (1) 扱う言語活動例

読んだ本について、好きなどころを紹介すること。 (読むこと 言語活動例オ)

### (2) 言語活動を充実させるための指導方法の工夫

教科書の紹介図書を中心として様々な物語を教室に置いておき、本単元の導入時から紹介したい物語を選んだり、並行読書をしたりすることができるようにする。また、「おすすめカード」の、児童が好きなどころを選んだ理由を書くための言葉（元気が出てくる、かわいい、にこにこ笑顔になる、どきどきする、おもしろい等）を活用しやすいよう、語彙を一覧にして掲示する。

## 6 単元の目標

○ 物語の好きなどころを見つけながら、楽しんで読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

◎ 登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像しながら読むことができる。 【読むこと ウ】

○ 物語の中の好きなどころについて、自分なりの感想を持って考えている。 【読むこと オ】

## 7 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読むこと
単元の評価規準	○物語の好きなどころを見つけながら、楽しんで読もうとしている。	○登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像しながら読み取っている。 ○物語の中の好きなどころについて、自分なりの感想を持って考えている。

学習活動の 評価に おける 具体的 規程	<p>○自分が選んだ本の中から、好きなどころを「おすすめカード」にかいて友達に意欲的に紹介しようとしている。</p> <p>○友達が紹介した本を、おもしろさを見つけながら読もうとしている。</p>	<p>◎教材文を読み、チロの行動をもとに場面の様子を想像して読み取っている。</p> <p>○友達に紹介する本を選び、登場人物の言動や場面の様子に着目して「おすすめカード」に書いている。</p>
----------------------------------	--	---

## 8 指導計画（全10時間）

次	学 習 活 動	評 価			
		関	読	評価規準	評価方法
一	「本のおすすめやさんをひらこう」を設定し、学習計画を立てる。（1）	○		○ 「おすすめカード」のモデルを見て学習の見通しを持ち、興味をもって物語を読もうとしている。	行動観察
	教材文の読み聞かせを聞き、感想を話し合う。（1）	○	◎	○ 教材文の読み聞かせを聞き、おもしろかったところや不思議に思ったところ等、心に残ったところを絵に描き、感想を伝えようとしている。	行動観察 ノート
二	教材文を読み、登場人物の行動をもとに場面の様子を想像して読み取る。（3，本時2／3）	○	◎	○ 初発の感想をもとに、登場人物の会話文や行動の叙述に着目して、場面の様子を想像して読み取っている。	行動観察 ノート
	教材文の「おすすめカード」をかき、友達に紹介する。（2）	○	◎	○ 教材文から好きなどころを見つけて、理由をつけて紹介しようとしている。	行動観察 おすすめカード
三	自分で選んだ本の「おすすめカード」をかき、友達に紹介する。（2）	○	◎	◎ 自分が選んだ本の好きなどころを見つけて、「おすすめカード」をかいている。	行動観察 おすすめカード
	友達が紹介した本を読む。（1）	○		○ 友達が紹介した本のおもしろさを見つけながら読んでいる。	行動観察

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

チロが「いいこと」を思いついてから、おばあちゃんに一番大事なことを呼びかけるまでのチロの様子について、会話文や行動の叙述に着目して想像を広げながら読み取ることができる。

### (2) 観点別評価規準

- チロがおばあちゃんに呼びかけるまでの会話文や行動の叙述に着目し、チロの様子を想像し

ながら読み取っている。

〔読むこと〕

(3) 本時のポイント

チロが「いいこと」を思いついてから、「ぼくにもチョッキ、あんでね。」とおばあちゃんに呼びかけるまでの一番大事な会話文や行動の叙述に着目し、動作化したり生活経験や挿絵をもとにイメージしたりして、想像を広げて読み取っていく。

(4) 準備物

場面絵，チロの会話文

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 前時までの学習を振り返る。	○前時までの出来事とチロの様子を，教室掲示で整理する。	
2 本時の学習課題を確認し，2場面（P57L9～P61L2）を音読する。	○チロがおばあちゃんに呼びかけた言葉は何か考えながら読むことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">チロは，どのようにしておばあちゃんにたのんだのでしょうか。</div>	
3 初発の感想と共に，大体の出来事を確認する。	○初発の感想をもとに，どんな出来事が起こったのかおさえていく。	
4 いいことを考えたチロがしたことを読み取る。 ○チョッキをあんでほしいことをつたえるために，チロはどんなことをしたのでしょうか。 ・まえよりもこえをはり上げて「ぼくはチロだよ。」と言いました。山のむこうにいるおばあちゃんまで聞こえて欲しいという気持ち	○チロの考えた「いいこと」は何か考えさせる。 ○「とび出して」と「出て」，「どんどん」と「どんどん どんどん」を比べることによって，チロのいいことを思いついた嬉しさと実行しようとする気持ちをおさえる。 ○チロが向かった場所やおばあちゃんの家的位置関係を，黒板に絵を貼りながら明確にする。 ○「おばあちゃん，おばあちゃん，…」の山びこの響きを，叙述から考えさせる。 ○「おばあちゃん……。」「ぼくはチ	

<p>で言ったと思います。          ・大きく口をあけ「ぼくにもチョッキ、あんでね。」と言いました。はっきり聞こえるように言ったと思います。</p>	<p>ロだよ。」「ぼくにもチョッキ、あんでね。」の3つのチロの呼びかけをする時の心情を想像させたり、声の大きさや口の開け方等の変化を考えさせて動作化させたりする。</p>	
<p>5 じっと耳をすましているチロの気持ちを考える。</p>	<p>○「じっと耳をすまして」いるチロの気持ちを、これまでの様子を板書で振り返らせてからノートの吹き出しに書かせる。</p>	<p>○チロの会話や行動の叙述に着目しながら、様子を読み取っている。(ノート)</p>
<p>6 二場面で一番好きなどころを選び、シールを貼る。</p>	<p>○これまで読み取ったチロの会話文や行動の中から、自分の好きなどころを選ぶ。          ○選ぶことが難しい児童には、どのチロが一番好きなのかを問い、チロの様子が分かるところを選ばせるようにする。</p>	
<p>7 本時の学習を振り返り、次時の学習の確認をする。</p>	<p>○本時の授業について、「他者視点」「自己モニター」の視点で振り返り、付箋紙(ブルー、ピンク)に記入させる。          ○次時では、チョッキが届いたチロがどんなことをしたのか考えることを伝える。</p>	